

2012 年度 FD 戦略による海外派遣成果報告

森 山 新

今回 FD 戦略による海外派遣に採択され、9 月 7 日～17 日まで、オーストラリア・シドニーに滞在した。目的は以下に述べるようにいくつかあるが、第一の目的が 8 月 9 日から実施された日本語教育実習指導であったため、FD 戦略の海外派遣に先立ち、8 月 9 日～9 月 3 日にも自身の研究費にてオーストラリア・シドニーに滞在した。そのため、本報告はそれを含めてのものである。



UNSW の正門に向かうメインストリート

1. 日本語教育実習指導

1.1. 概要

今回、日本学生支援機構 (JASSO) のショートビジットプログラムの支援を受け、UNSW における教育実習が実施され、大学院日本語教育コースから 4 名の学生が参加した。院生らは協定が定める実習生枠で UNSW に滞在した。8 月 9 日に日本を発ち、9 月 27 日に帰国、その間、それぞれが選択した日本語授業に参加、担当教員の指導のもとで、海外日本語教師に求められる教育スキルを体得すべく、実習が行われた。実習内容は、毎週担当教員と事前の打ち合わせをすることから始まり、教案を作り、授業に参加し、授業後は担当教員と事後のミーティングを持った。毎週金曜日には全体でのミーティングが行われて、その週の実習を振り返った。

森山は毎週金曜のミーティング、日本語・日本文化に関する授業見学、実習を行う授業見学を行ったほか、Professional の授業ではビジターセッションの授業を担当した。また大学院生の自主ゼミにも参加した。

1.1.1.実習日程

8月9日 成田発 出国

8月10日 オリエンテーション、実習生登録手続き

8月13日～17日 第1週

8月20日～24日 第2週

8月27日～31日 第3週

9月3日～7日 中休み

9月10日～14日 第4週

9月17日～21日 第5週

9月26日 実習生シドニー発帰国の途に (27日朝成田着)

1.1.2.参加者 (4名)

佐々木馨 (日本語教育コース M2)

Garmayeva Olga (日本語教育コース M2)

吉田綾 (日本語教育コース M1)

西澤真奈美 (日本語教育コース M1)



ミーティングを行う4名の実習生 (左から Olga、西澤、吉田、佐々木、橋本先生)

1.2.UNSW 日本学科について

1.2.1.概要

3年で学部課程を卒業するが、一部選抜された学生は4年目の Honours に進学する
日本語のレベルは大きく4段階で初級 (Introductory Level)、中級 (Intermediate Level)、
上級 (Advanced Level)、プロフェッショナル (Professional Level)

	Level	1 年目	2 年目	3 年目
JAPANESE STUDIES	Introductory Level	Intro	Inter	Ad
	Intermediate Level	Inter	Ad	Pro
ADVANCED JAPANESE STUDIES	Advanced Level	Ad	Pro	Pro
	Professional Level	Pro	Pro	Pro

1.2.2.スタッフ

スタッフは 6 名の専任教員からなる

担当日本語授業	名前	役職
初級日本語	Chihiro Kinoshita Thomson	Professor
初級日本語	Nagisa Fukui	Lecturer
上級日本語	Kazue Okamoto	Lecturer
中級日本語	Sumiko Iida	Lecturer
日本文化	William Armour	Senior Lecturer
プロフェッショナル	Yumiko Hashimoto	Associate Lecturer

1.2.3.実習生の担当授業

実習生は以下のような授業を担当した。

- ・オリガ、西澤；初級（福井）
- ・吉田：中級（飯田）
- ・佐々木：上級（岡本）
- ・森山：プロフェッショナル（ビジターとして講義を行う）



吉田さんの実習風景



佐々木さんの実習風景



西澤さんの実習風景

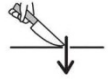


オリガさんの実習風景

森山のビジターセッション資料

あなたは「切る」をどのくらい知っていますか？

高山 新 (お茶の水女子大学大学院)



日本語多義語学習辞典



まず簡単な質問から

切る = CUT

でもそんなに単純？確かめてみよう！

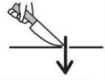
正しい「切る」の文はどれ？

① ナイフで糸を切る。	× 水でウイスキーを切る。
② 指を切ってしまった。	⑩ 天ぷらの油を切る。
× 合格定員を半分に切る。	⑪ 親子の縁を切る。
③ 80歳以下の人を切る。	× 世界記録を0.1秒切る。
④ 借収書を切ってください。	⑫ 電話を切る。
⑤ 政治家の腐敗を切る。	× 借収書も切ってもらった。
× 昨日、英語の授業を切った。	⑬ ハンドルを右に切る。
⑥ 風を切って走る。	⑭ 社員を切る。
⑦ トランプを切る。	⑮ 胃を半分切る。
× この道は森を切る。	⑯ かんづめのかんを切る。

切る = CUT

- 1) 太郎がナイフでロープを切る。
- 2) 花子ははさみで前髪を切った。
- 3) 木を切る。


【人などが】
[連続した長いものを]
[ナイフ・はさみなど]で
[分断する]
イメージを連想しよう！



切る + 開ける

- 4) 手紙の封を切る。
- 5) かんづめのかんを切る。

cf. 封切、缶切り



切る + 治療・手術する

- 6) 胃を半分切る。
- 7) 盲腸を切る。




切る + 殺す・傷つける

- 8) 敵を斬る。
- 9) 平の指を切ってしまった。



「切る + 殺す」ように「辞職させる」

- 12) 一部の社員の首を切った。




「切る + 傷つける」ように「批判する」

- 13) 痛烈な言葉で官僚の腐敗を斬る。
- 14) 世相を斬る。




切る + 発行する

- 10) 借収書を切ってください。
- 11) 小切手を切る。



「切る」ように「横断する」

- 15) 一隻の船が波を切って進む。
- 16) 走者が風を切って走っていった。

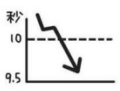


「切る」ように「(数値を) 横断、減少する」

- 17) 100mのタイムが10秒を切った。


<注意>

- 10秒を切る。
- × 記録を(0.1秒)切る



「切る」ように「(つながり・関係を) 分断する」

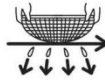
- 18) 電気を切る。
- 19) 電話を切る。
- 20) 長い文を切って読む。
- 21) 親子の縁を切る。



「切る」ように「(不要物を) 除去する」


- 22) 天ぷらの油を切る。
- 23) ざるで野菜の水を切る。
- 24) 彼女への未練を切る。

* 連続したものの不要な部分を切って捨てる。



「切る」ように「力強く行う」

- 25) ハンドルを右に切る。
- 26) カーブを切る。



「切る」ように「混ぜる」

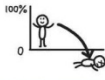
- 27) トランプをよく切ってから配った。

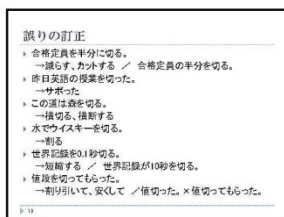


複合動詞「V+切る」

*なぜ「切る」を使うのか考えよう。

- 28) 一晩で本を1冊読み切ってしまった。
- 29) 彼は瘦れ切った顔をしている。





1.2.4.カリキュラム

実習生たちは以下のうち各担当科目で実習を行うほか、ほとんどの授業に参加した。

①Japanese Studies

Introductory Level [1] Level 1 [1]→ Level 2 [2] →Level 3 [3]

Level 1 [1]

ARTS1630 Introductory Japanese A OR ARTS1632 Intro Japanese HSC Beginners (6 単位)

ARTS1631 Introductory Japanese B (6 単位)

Level 2 [2]

ARTS2630 Intermediate Japanese A (6 単位)

ARTS2631 Intermediate Japanese B (6 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Level 3 [3]

ARTS3630 Advanced Japanese A (6 単位)

ARTS3631 Advanced Japanese B (6 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Capstone Course (6 単位、必修)

Intermediate Level [2] Level 1 [2]→ Level 2 [3] →Level 3 [4-1]

Level 1 [2]

ARTS2630 Intermediate Japanese A (6 単位)

ARTS2631 Intermediate Japanese B (6 単位)

Level 2 [3]

ARTS3630 Advanced Japanese A (6 単位)

ARTS3631 Advanced Japanese B (6 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Level 3 [4-1]

ARTS3632 Professional Japanese A (6 単位)

ARTS3633 Professional Japanese B (6 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Capstone Course (6 単位、必修)

Japanese Contextual Studies Courses

Japaneses Studies Courses:

ARTS2632 Contemporary Japan (6 単位)

ARTS2633 A Cultural Survey of Japan (6 単位)

ARTS3639 Representations of Japan (6 単位)

ARTS3640 Japan and Korea (6 単位)

The following courses from other subject areas can also be counted towards the Japanese Studies major stream:

ARTS3218 Japanese History (6 単位)

Japanese Studies Capstone course (Compulsory)

ARTS3636 Japanese Studies Capstone (6 単位)

Honours 4 年目

②Advanced Japanese Studies

Advanced Level [3] Level 1 [3]→ Level 2 [4-1] →Level 3 [4-2]

Level 1 [3]

ARTS3630 Advanced Japanese A (6 単位)

ARTS3631 Advanced Japanese B (6 単位)

Level 2 [4-1]

ARTS3632 Professional Japanese A (6 単位)

ARTS3633 Professional Japanese B (6 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Level 3 [4-2]

Japanese Professional Studies Courses (12 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Capstone Course (6 単位、必修)

Professional Level [4] Level 1 [4-1]→ Level 2 [4-2] →Level 3 [4-3]

Level 1 [4-1]

ARTS3632 Professional Japanese A (6 単位)

ARTS3633 Professional Japanese B (6 単位)

Level 2 [4-2]

Japanese Professional Studies Courses (12 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Level 3 [4-3]

Japanese Professional Studies Courses (12 単位)

Japanese Contextual Studies Course (6 単位)

Capstone Course (6 単位、必修)

Japanese Contextual Studies Courses

Japanese Studies Courses:

ARTS2632 Contemporary Japan (6 単位)

ARTS2633 A Cultural Survey of Japan (6 単位)

ARTS3639 Representations of Japan (6 単位)

ARTS3640 Japan and Korea (6 単位)

The following courses from other subject areas can also be counted towards the Japanese Studies major stream:

ARTS3218 Japanese History (6 単位)

Japanese Professional Studies Courses

ARTS6704 Japanese Discourse Analysis (6 単位)

ARTS6715 Japanese Literature (6 単位)

Japanese Studies Capstone course (Compulsory)

ARTS3636 Japanese Studies Capstone (6 単位)

Honours 4 年生

1.3.実習を引率しての FD に関する学び

・ UNSW では日本学科の教員が連携し合い、それぞれの担当科目が有機的に融合されて学生に提供されていた。

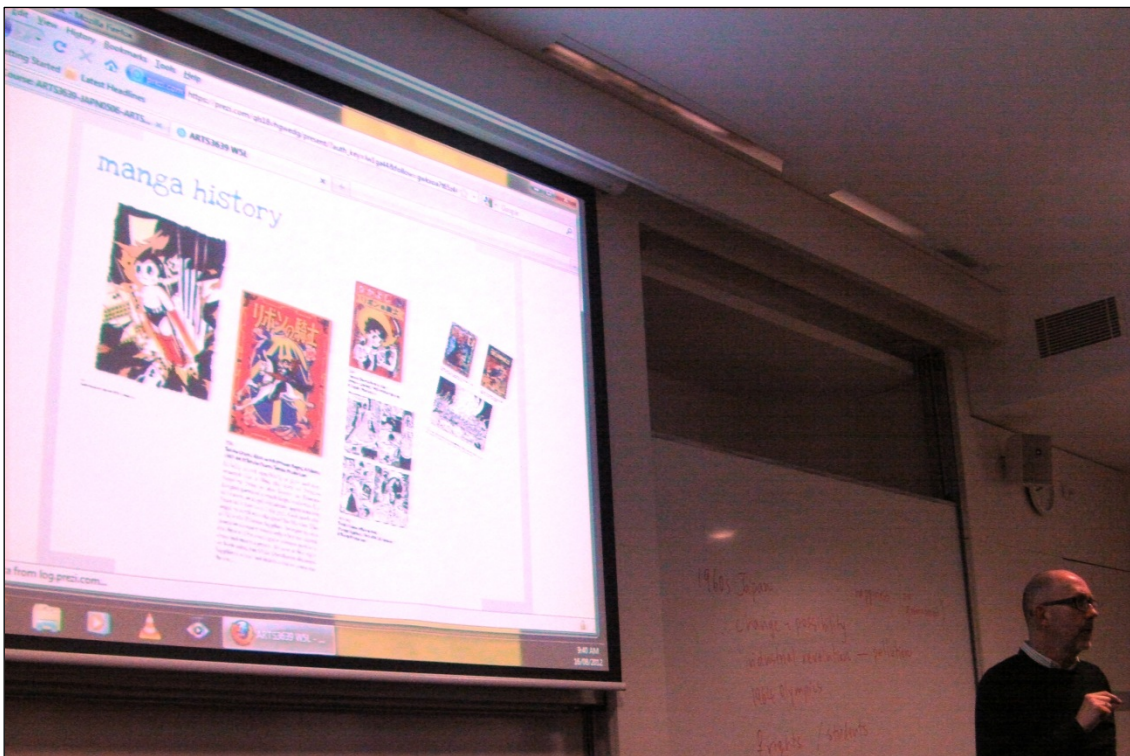
・ 本学の大学院（日本語教育コース）は、研究指導が中心であり、今回のように将来教員を目指す院生向けの教育指導はあまり多いとは言い難い。今後教育実習を強化するとともに、教育指導をすることができるカリキュラムを開発する必要がある。

・ UNSW では、Blackboard、Moodle などを用いたコースウェアサービスが行き届いており、学生は授業だけでなく、予習、復習、学生間の討論をこの空間で活発に行っている。本学もそれは学ぶべきだと感じた。



Blackboard を用いてのプロフェッショナルの授業風景 (左は担当の橋本先生)

・日本文化の授業 (William Armour 先生) ではパワーポイントに代わるプレゼンテーションソフト (プレジ) が用いられており、興味深かった。 <http://prezi.com/>



プレジを用いた日本文化の授業 (右は担当の Armour 先生)

- ・学内至る所にソファ、学習用テーブルなどが配置されていて、学生はどこでも勉強が可能である。また全域に無線 LAN、電源があり、学生は教室内だけでなく、ベンチ、芝生などあらゆるところで PC、ネットを使用可能となっている。
- ・図書館のコピー機はコピーだけでなく、USB への保存、メールでの送信が可能であり、保存などが便利になっている。

2.学部生用語学研修プログラムの開発

2.1.概要

採択されたグローバル人材育成推進事業のために、2013 年度から UNSW での語学研修の拡大が求められている。語学センターとの打ち合わせ、及び授業参観を行った。現在はオタゴ大学（ニュージーランド）、モナシュ大学（オーストラリア）、マンチェスター大学（イギリス）の3つが行われているが、これらとの差別化を図るためそのため、上で述べた日本語教育実習とリンクさせ、実習を行う院生の指導の下、語学研修に参加した学生たちにインターンシッププログラムとして授業に参加してもらうことをめざし、協議を行った。日本語教育体験については、語学センタースタッフとの打ち合わせとともに、日本学科の先生方との打ち合わせも行った。



語学センターの建物（UNSW 正門前）

2.2.合意事項

現在も、交渉が進行中であるが、両者で合意が得られつつあるプログラムの内容は以下のようなものである。但し、語学プログラムにどう日本語教育インターンシップを取り込むかは今後継続して協議する予定である。

2.2.1.日程

8月5日～9月6日（5週間） 語学研修&教授法についての授業（英語）

9月9日～20日（2週間）日本語教育体験 上記大学院生と共に、日本語教育を体験する
<補足>

- ・お茶大生（日本人）のみのクラス編成を避けるために、総合英語プログラムなど既成のプログラムに本学の学生をレベル別に組み込む。
- ・午前中は英語の語学プログラムを受け、午後の時間にオプションとして英語による教授法についての授業を追加する。
- ・5週間プログラム終了後に、お茶大独自のプログラムとしての日本語教育インターンシップを実施する。
- ・グローバル人材育成推進事業が採択されたことから、急ぎよ 10月10日に来日中の UNSWGlobal の Marc Weedon-Newstead 氏（Principal and Group Executive）と話し合いを持ち、夏のプログラムの他に、春にも英語教育インターンシップ付きの語学研修を開催する方向で準備を開始した。

2.2.2.語学プログラムの交渉相手

責任者 Ms.Adele Pitkeathly

Organisation UNSW Institute of Languages UNSW Global Pty Limited

Building Nicta Building

Email a.pitkeathly@unsw.edu.au

プログラムコーディネーター Mr. Maro Alwan

Group Programs and Sponsored Students Coordinator

UNSW Institute of Languages

ホームステイ担当 Chiemi HAGINOYA

Accommodation Officer

UNSW Global Student Support

Tel: 61 2 9385 9672 Fax: 61 2 9662 2651

Email: c.haginoya@unsw.edu.au

Web: www.ufs.unsw.edu.au | www.languages.unsw.edu.au

223 Anzac Parade Kensington NSW 2033 Australia | P O Box 6666 UNSW Sydney
NSW 1466 Australia

2.3 授業見学

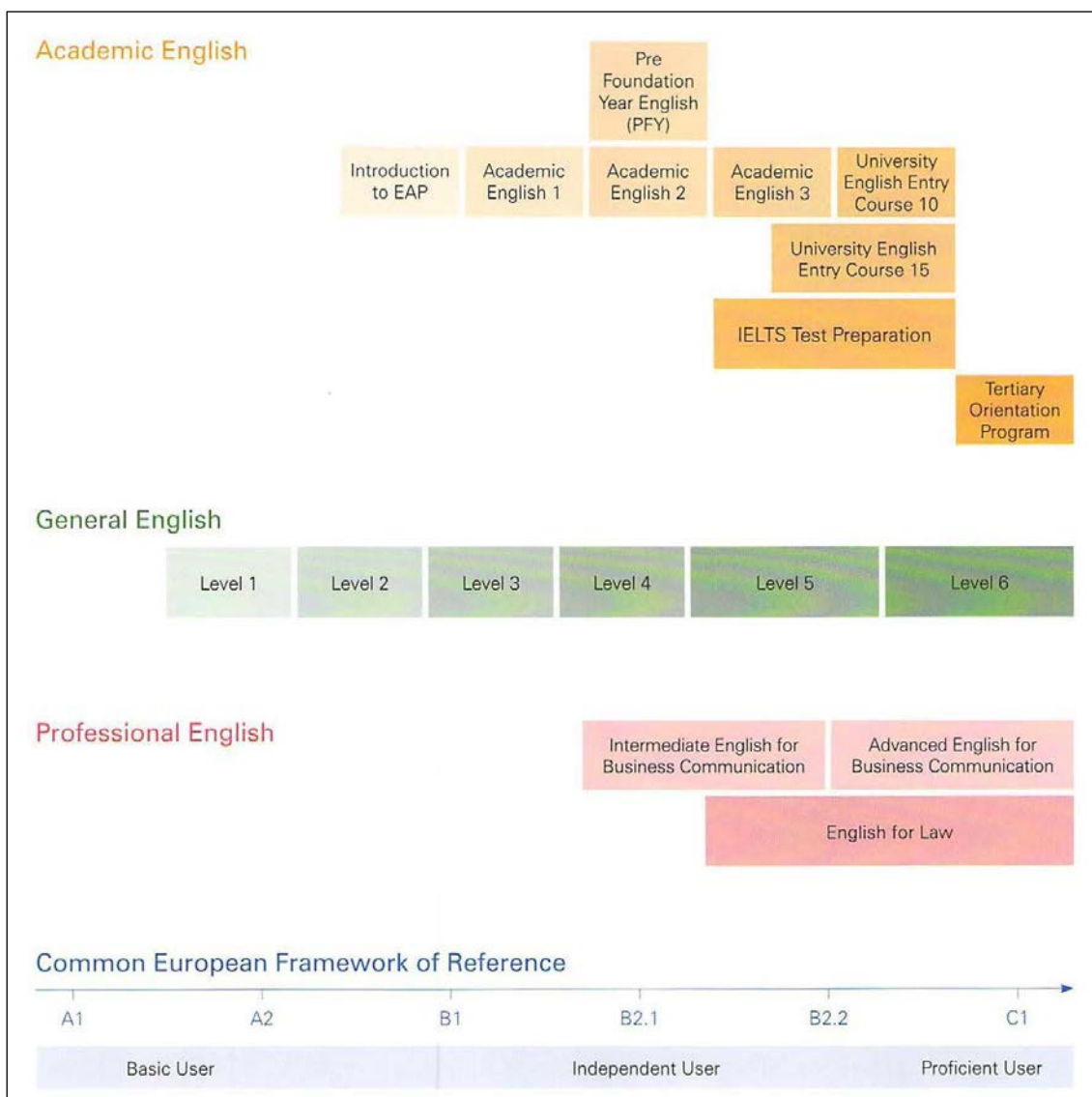
Time	Course	Teacher	Room	Lesson
Thu. 9:00– 10:00	Advanced English for Business Communication (AEBC)	Ms Mairéad Ní Chiosáin	Room G07	Coursebook
Thu. 10:00– 11:00	Advanced General English (GE 6)	Mr Ben Edwards	Room G21	Coursebook



Advanced General English の授業の様子

2.4. 語学センター(UNSW Institute of Languages)

- ・ UNSW の語学センターには、General English として6つのレベルがあり、入学時に筆記試験、口頭試験によりふさわしいクラスに配置される。
- ・ その他、Academic English、Professional English などの授業がある。



・ 15 名以上の参加があればテーラーメイドの授業を開設することができ、その場合、本学のニーズに合わせたプログラムを開設してくれる。来年度からの本学のプログラムでは、英語による教授法の授業を組み入れていただけることとなった。

・ 授業は月曜から金曜までの 9 時から 13 時 30 分まで行われている。それぞれの授業定員は 20 名程度。

・ 宿泊施設は、語学センター横の New College、近隣の Unilodge、希望者にはホームステイを提供している（但し 8 月は希望者が多いため入寮は容易でない）。ホームステイは 250AUD/週で、できるだけ大学に近いところを探してくれるが、8 月は希望者が多いため、遠くに配置されることもある。

①New College

住所 330 Anzac Parade, Kensington NSW 2033 Australia

URL <http://www.newcollege.unsw.edu.au/sydney/casual-accommodation>



New College の部屋 (G3 の場合)



New College とグラウンド

②Unilodge

住所 Corner of Anzac Parade and Lorne Avenue, Kensington, Sydney, NSW 2033

Tel: 61 2 9017 6250

Fax: 61 2 9017 6251

URL <http://www.unilodge.com.au/locations/index.asp?Location=@%20UNSW>

3.オーストラリア、及び世界の多文化教育についての研究

上記業務の合間にオーストラリア及び世界の多文化教育についての資料、情報を集め、日本、及び東アジアの第二言語教育への活用可能性について考察を行った。

「多文化主義／教育」は一国内の多文化状態について述べるのが普通であるが、異文化、多文化をオーストラリアの「国」の外から中へ取り込む試みと努力は、日本が韓国、中国などの近隣諸国との間で「国」を越えて他文化を迎え入れ、多文化が共生する東アジア共同体を形成する際の参考になると考え、オーストラリアの多文化教育について研究を進めた。

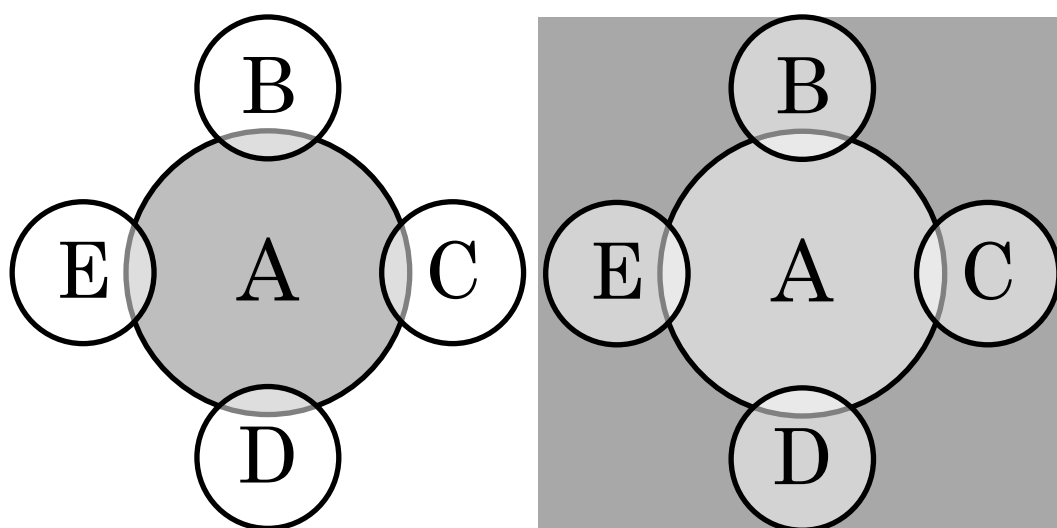
オーストラリアは歴史的に、単文化主義から多文化主義への転換を行っている。すなわち「白豪主義」（1901年～）から「同化政策」、「統合政策」（1960年中旬～）を経て「多文

化主義政策」(1973年～)へ移行している。

1973年には「多文化社会」の表明と人種差別の撤廃を宣言した (Galbally Report)。

1996年には自由党政権が「文化の多様性がオーストラリアを結束する力となる」ことをめざし、向こう10年間の多文化主義政策と実行計画の検討を開始した。

1999年の「新たな世紀のためのオーストラリア多文化主義」では、オーストラリアの伝統、歴史、民主主義、文化及びアイデンティティの多様性を前提とし、「市民的義務」を履行することを求めている。



かつてオーストラリアは均一性の調和を求めあまり、同化、統合を求めた (同化政策、統合政策)。その結果、「自文化中心」の発想とアイデンティティを生み出し、そこに包含できない存在は異なるものとして排除したり、対立を生み出したり、同化・統合を求めたりしていた。しかし多文化主義を採択することにより、個体内に多様性を包含し、多様性の調和が実現、対立の構図をなくし、共生の道が開ける可能性がある。

つまりオーストラリアは「均一性による調和 (と異質性との対立)」から「多様性の調和」へと移行している。またアイデンティティの側面では「均一性による調和」に基づくアイデンティティの形成から、「多様性の調和」に基づいた、「国を越えたアイデンティティ」の形成へと変化を遂げたと言える。

但しオーストラリアの多文化主義もまた、白人の優位性が根強く残っており、限界があるという指摘もある (塩原 2012)。

塩原 (2010、2012) では「異なる他者とどのように関わるべきなのか」に対する答えとして「多文化主義」を用いており、「居場所を共有し差異を認め、差異を越えた日常的な対話と協働の実践」を通じ社会構造の変革をめざしている。

塩原の「居場所」は国内を考えたものだが、これを「東アジア/世界」に拡大することで、「対話と協働の実践」を通じた「日韓関係の変革と東アジアの共生」「グローバルな世

界の共生」を考える際の参考になる。

<補足>

研究成果は、グローバル文化学環の「言語と文化」「グローバル化と言語教育 I」の授業や、グローバル教育センターとの共催で毎年開催されている「多文化交流実習 I～IV」などの授業の改善を図るために役立つ予定である。また、11月3日に韓国で開催される日本文学会の招請講演にて「グローバル時代の日本語教育」として発表する予定である。

収集、参考にした主な資料は以下の通り

Australian Education: Passport to a Global Career, Focus Publishing (ISBN 1920683097)

青木麻衣子 (2009) 『オーストラリアの言語教育政策—多文化主義における「多様性」と「統一性」の揺らぎと共存』、東信堂

松田陽子 (2009) 『多文化社会オーストラリアの言語教育政策』、ひつじ書房

Kenneth Cushner(eds.)(1998)*International Perspectives on Intercultural Education*, Routledge

太田裕子 (2006) 「理論と実践における「異文化間言語学習」の問題：オーストラリアにおける年少者日本語教育の事例から」、『WEB 版リテラシーズ』第3巻1号、くろしお出版

太田裕子 (2007) 「多文化社会に生きる子どもへの「異文化間言語学習」の意味：オーストラリアにおける「内容」をめぐる議論から」、『早稲田大学日本語教育学』第1号

塩原良和 (2010) 『変革する多文化主義—オーストラリアからの展望』、法政大学出版局

塩原良和 (2012) 『共に生きる—多民族・多文化社会における対話』、弘文堂

トムソン木下千尋 (2011) 「Intercultural Language Learning (文化間言語学習) が目指す学習者が育成していくべき日本語能力」、『早稲田日本語教育学』第9号

James A. Banks, Cherry A. McGee Banks (2003) *Handbook of Research on Multicultural Education*, Jossey-Bass

山田裕子 (2006) 「多文化社会における年少者日本語教育の意義と実際」、修士論文

鈴木京子 (2002) 「多文化教育としての LOTE 教育の構築に向けて—オーストラリアの日本語教育における近年の動向に関する一考察—」『言語文化と日本語教育』2002年5月特集号